# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
# －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　生野区

学 校 名　　大阪市立鶴橋小学校

学校長名　　近藤　英幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立鶴橋学校では、第６学年　２４名

学校名　大阪市立鶴橋小学校

## 令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○平均正答率については、国語科・算数科ともに大阪市・全国の値を上回る結果となった。理科は大阪市・全国の値を下回った。
○国語科については、特に「我が国の言語文化に関する事項」の領域や「書くこと」「読むこと」について理解が進んだ。
○算数科については、「測定」や「変化と関係」の領域の理解が進んだ。
○理科については、「エネルギー」領域について課題がみられた。
○平均無答率については、全国・大阪市平均ともに３P前後であるが、本校は３教科とも１Pを下回る結果となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］読むことの領域において、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」についての正答率が８割あり、全国・大阪市の生徒率と比べると25Pほど上回り、成果が見られた。「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」についての正答率が４割を下回り課題がみられる。
［算数］「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること」について、８割を上回る正答率で成果が見られた。「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」について正答率が２割を下回り課題がみられた。
［理科］「『水は温まると体積が増える』を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること」について成果が見られた。「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうか」について正答率が１割を下回り課題がみられた。

質問調査より

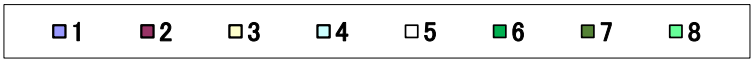
◎「自分には、よいところがある」の項目に最も肯定的な回答をした児童の割合は、63.3%であった。（昨年度64%）
◎「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は46.7%でった。（昨年度52%）
⇒両方とも全国・大阪市平均より大きく上回っている。授業で協働的な活動をより多く取り入れ、様々な学校行事でお互いに認め合い協力することで、自分のよさに気づいたり、友達の考えを取り入れることで自分の考えを深めることができたりできている。
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は93.3%（昨年度96%）全国や大阪市平均よりやや下回った。
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は40%（昨年度48%）、肯定的な回答全体では80%（昨年度80%）であった。全国や大阪市平均と比べると１割ほど下回っている。
⇒10月の構内アンケートでは学校が楽しいと答えた児童は100%となっている。これからも心の天気を活用しながら、児童の変化に気づけるように学校全体で見守っていく。また、いじめは絶対に許さないという学校全体の取り組みを継続させながら、いじめはいけないことと肯定的にとらえていない児童について、担任を中心として、個別に指導を行う。

## 今後の取組(アクションプラン)

○様々な教科において、「自分の考えをもち、対話的に学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざした授業づくりを通して～」をテーマに、個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れた授業の充実を図る。
○算数が苦手な児童について、ティームティーチングを行いながら、きめ細やかな指導を行う。
○理科専科の教員を中心として、出前授業も活用しながら、「観察、実験」の活動を充実させ、課題探究的な学習に取り組む。
○個人で学び直しができるように、デジタルドリルの活用を学校全体で推進していく。

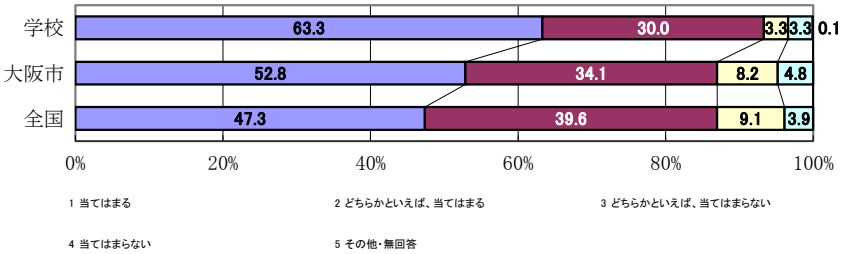
# 児童質問より

| 質問番号 |
| --- |
| 質問事項 |



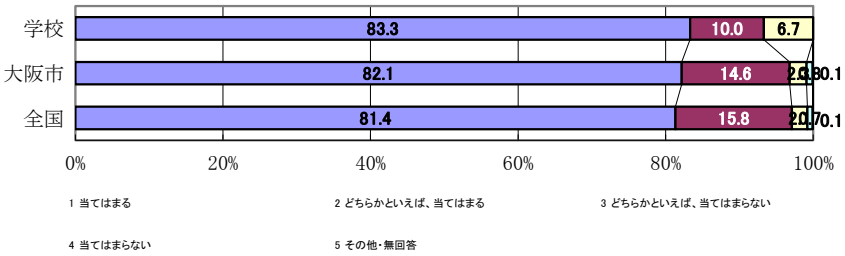

## 5

自分には、よいところがあると思いますか



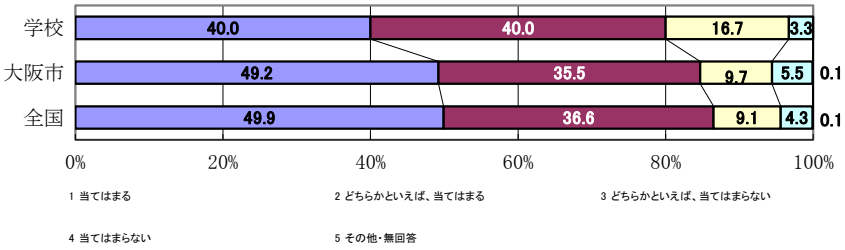

## 9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



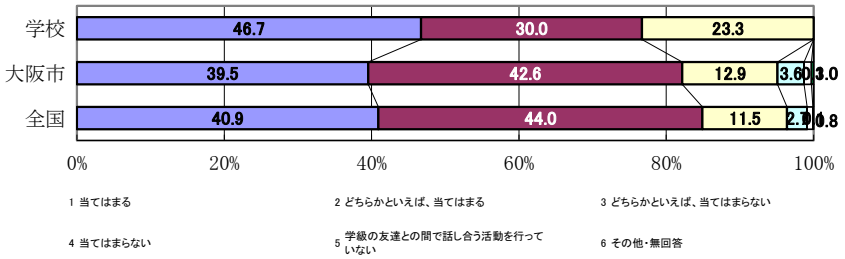

## 12

学校に行くのは楽しいと思いますか



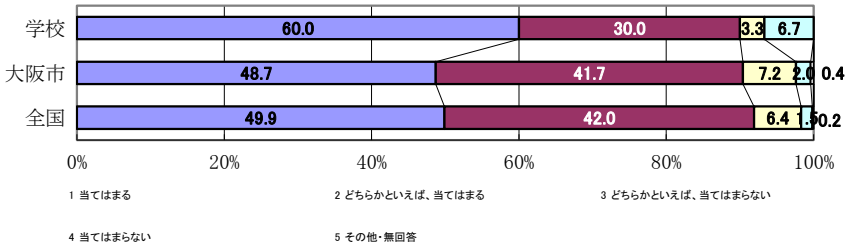

## 35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか




## 39

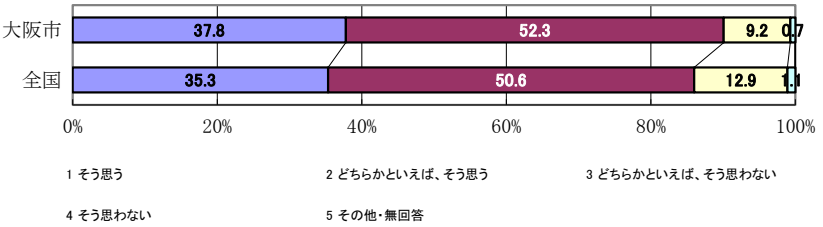
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



# 学校質問より

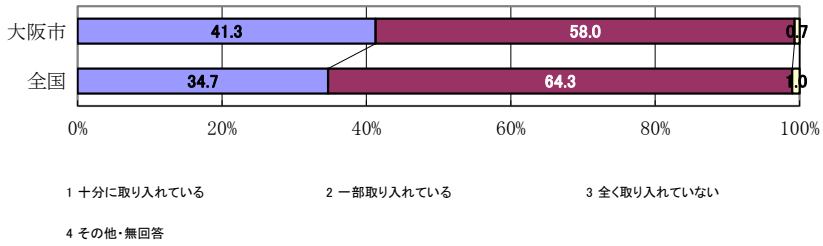
| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| 8 | 調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか |

学校 「そう思う」を選択



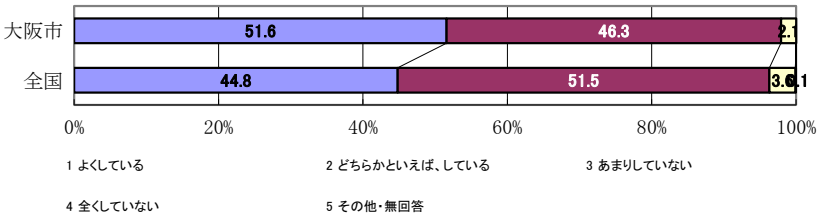

| 13 | |
|---|---|
| | ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか |

学校 「十分に取り入れている」を選択



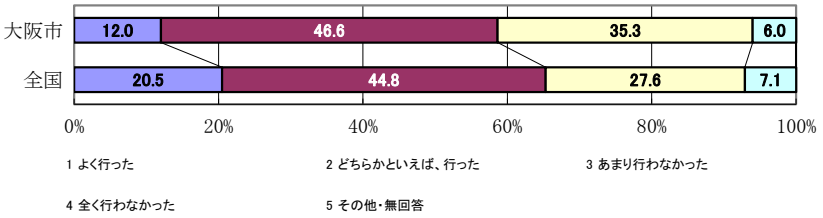

| 17 | |
|---|---|
| | 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか |

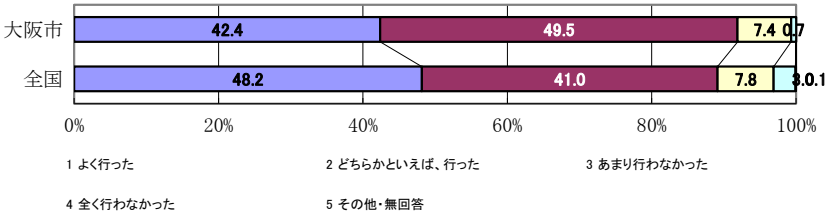
学校 「よくしている」を選択




| 72 | |
|---|---|
| | 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか |

学校 「あまり行わなかった」を選択




| 76 | |
|---|---|
| | 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか |

学校 「どちらかといえば、行った」を選択